

# 購買力平価が為替レートのアンカーだというはどういうことか

日本大学 坪内 浩

## 要旨

購買力平価は長期的に為替レートのアンカーになっていると考えられている。本論文では、為替レートと購買力平価の間に乖離があった場合に為替レートが購買力平価に近づく形で乖離が解消されていくのか、為替レート購買力平価が為替レート購買力平価に近づく形で乖離が解消されていくのか、またはそのどちらでもないのかについて、変動相場制移行当初からデータが利用できる 12 か国（多くの欧州連合の国々を除く）にエラーコレーション型の VAR モデル(VEC モデル)を適用して分析した。

その結果、①すべての国について実質為替レートが定常になるような形で為替レートと購買力平価の乖離が解消されるわけではないこと、②為替レートが購買力平価に近づく形で両者の乖離が解消される国と、購買力平価が為替レートに近づく形で乖離が解消される国があること、③前者については為替レートが乖離を解消するスピードが妥当な長さになっているが、後者については購買力平価が乖離を解消するスピードがかなり遅いこと、がわかった。

JEL Classification: F31、F41

Keywords: 購買力平価、VEC モデル、調整速度係数